



あの会社で見た、訊いた、地域とのかかわり。
大人の社会科見学。

TAKE FREE

このまま、ご自由に
お持ち帰りください



ママを応援、家族に笑顔。

7月・8月限定
(プチママメニュー)

25歳以上、140円

2,100円 - 通常価格5,140円

3,980円 (税込)

2,100円 - 通常価格4,200円

4,980円 (税込)

4,100円 - 通常価格9,100円

5,980円 (税込)



夕食の準備で、こんなお悩みはないですか？

- 何かとして料理をしている時間がない
お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- 夕食のメニューが思い浮かばない
夕食のメニューが思い浮かばない、お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- 食費が安い
お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。

そんなとき、ヨシケイに頼めば！

- お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。
- お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。

お昼から
夕食まで
299円
税別

※お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。



まずは5日間お試しください

ヨシケイのサービスには、お昼から夕食まで、準備がなかなか進まない。

2週目以降はさらにお得！

詳しくはスタッフにお話をください。

一緒に働くスタッフ募集

2018年7月より、新しくヨシケイにスタッフを募集しています。
経験は問いません。お気軽にお問い合わせください。

工場スタッフ(山形県山形市) 若干名
営業スタッフ(山形県山形市) 若干名
勤務地：山形県山形市

お問い合わせ
工場スタッフ 023-647-0644
営業スタッフ 023-647-0601

ABOUT COMPANY

コンクリート構造物をつくる仕事とは「クライアント、社員、取引先、地域の人関係なく、参加するすべての人の幸せの追求」を企業理念に、コンクリート圧送事業、設備事業の二本柱で事業を展開している。現在、拠点は東日本に14か所。「ファーストコールカンパニー」を目指す。

CHALLENGE NOW

積極的な外国人実習生の受け入れ

日本人社員の育成に尽力しつつ、約10年前から外国人実習生を受け入れ、即戦力となる人材の育成に取り組んでいる。現在、従事しているのはベトナムからの実習生21人。その中の1人、ホアン・バン・ホンさんが「優秀外国人建設就労者」として、今年3月に国土交通省から表彰された。



株式会社ヤマコン
山形県山形市十文字天神東
770 ☎023-666-6066
www.yamacon.jp

- 創業 昭和41年
- 資本金 9,000万円
- 従業員数 202人
- 平均年齢 42歳



代表取締役社長 佐藤隆彦さん



2016年末に竣工した、新国立競技場の工事の様子。現在は、東京オリンピック関連以外の大型プロジェクトも始まっている。

それまでは現場でコンクリートを「現場練り」が主流だったが、創業と時期を同じくして国内では「生コン」が誕生する。そうした背景から、県内の建設ラッシュに対応してという山形の企業人たちが出資して設立したのがヤマコンの始まりだという。現在は、「コンクリート圧送工事」と様々な設備工事をメインに事業を展開している。

新国立競技場など 2020に向けて インフラを整備。

送り出し教育の「打ち合わせ」

毎日異なる現場での作業のため、次の日の工事の状況について工務課と打ち合わせを厳密に行い、新たな現場へ送り出してもらう。



16:00



15:30

ブーム配管の肉厚を確認
高圧でコンクリートを送り込むため、配管の肉厚チェックは障社後、毎回くまなく行う（破綻防止のため）。



9:00

コンクリート打設
最新型のコンクリートポンプ車を操作しながら、型枠などに圧力をかけてコンクリートを流し込む。

PROFILE

キャリア4年、荒木さんの1日

「丁寧に安全な施工を心がけています。完成後を目にするとやりがいを感じますね」と、コンクリートポンプ車を操作する荒木さん。コンクリート圧送施工技能士2級取得。



オペレーター 荒木天祐（たかよし）さん



8:00

朝礼と打ち合わせ

工事現場に到着後、1日の作業の確認や注意事項など細かい打ち合わせを現場監督と念密に行う。



8:30

大きな重機を操縦してブーム（輸送管）を展開
テレコンというリモートコントローラーを使い、重機を一人で操縦。32メートル離れた場所にもコンクリートを送り込める。



8:15

始業前に 車両点検を行う

安全第一がモットー。建設機械の不具合がないかを十分に確認してから作業に取りかかっている。



赤い色がひと際目を引く、コンクリートポンプ車に乗り込む荒木さん。折りたたみ式の4段ブームの長さは36m。作業の様子は圧巻だ。広い現場での作業効率化を図るため、全国でも数台しかない47mの作業車の導入を今後予定しているそう。

「国土を守る、命を守る」という使命を担って。

社会全体の「土台をつくる」仕事。そんななか、転機は何度も訪れた。「東日本大震災が命を失く、あらためて「国土を守る」仕事をしていきます」と佐藤社長。仕事の拠点は8割以上が県外で、宮城県や福島県での震災復興に向けて業務が大きな割合を占めている。そして、2年後の2020年に行われる東京オリンピック「パブリック」に向けて新たな転機が。メインとなる「新国立競技場」やポーター競技場のインフラ工事を担当している。1964年の東京オリンピックの興奮冷めやらぬ時代に創業し、時を重ねた今、次のオリンピック「パブリック」

に関わっていることも何かの縁なのかもしれない。「構造の骨格をつくっているのだから、完成しても人の目に触れることのない地味な裏方の仕事ですが、我々の仕事がかかりしていないと困れてしまいます。社会全体の土台づくりをしていると自負しています」と、佐藤社長は力強く答えてくれた。

「生コン」の誕生が、建設業界に新たな変化を齎ること56年前、東京オリンピックが開催され、日本全体がオリンピック景気からいそいそと景気に移り始めた頃に創業。「生コン」の誕生が、建設業界に新たな変化を齎ること56年前、東京オリンピックが開催され、日本全体がオリンピック景気からいそいそと景気に移り始めた頃に創業。佐藤社長は、株式会社ヤマコンの佐藤隆彦社長だ。20年前に公開の映画「シン・シティ」に登場した「コンクリートポンプ車」は、山形の企業が所有するもの。映画のモチーフになったのが福島県原簿。実際に現場で放水作業に使用されている車と同一のものが当社にあったことから「オファー」を受けました」と話すのは、株式会社ヤマコンの佐藤隆彦社長だ。

COMPANY CASE STUDY

CONCRETE PUMP WORK

OTONA NO STAKAIKA-KENGAKU

約3兆9,542億円

平成27年度の県内総生産は、名目で3兆9,542億円（実質で4兆3,870.4億円）。名目経済成長率（名目県内総生産の対前年度増加率）は3.3%増と、前年度比でプラス成長となっている。

約2兆7,880億円

産業別の売上高では、製造業が2兆7,860億円と最も多く、次いで卸売業・小売業が2兆6,744億円、医療・福祉が1兆1,722億円。山形県の名目経済成長率には、製造業の生産額の増減が最も大きな影響を及ぼしている（出典「山形県企画振興部「県民経済計算」」）。